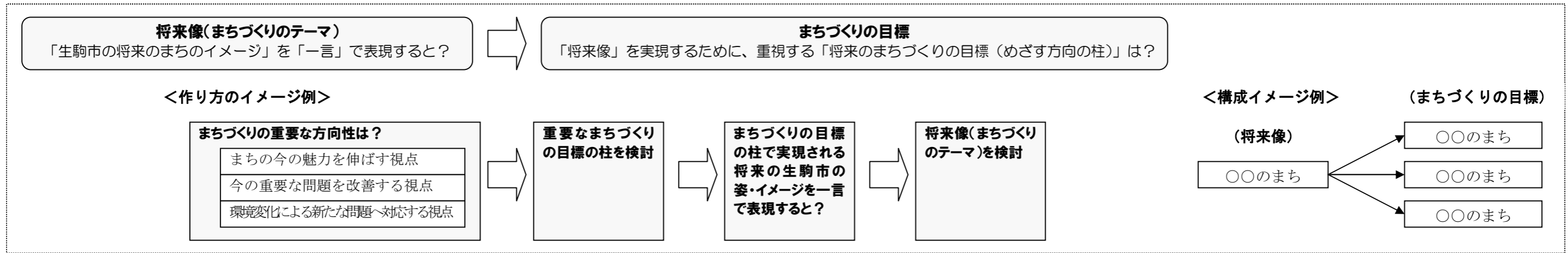


(1) まちづくりのテーマ(将来像) や目標の検討イメージについて



【参考①】まちづくりのテーマ(将来像) や目標の事例

生駒市の各種関連計画では？	他都市における関連計画では？																		
<p>■ 現生駒市都市計画 MP</p> <p>【都市づくりのテーマ】 “未来への飛翔 新しい快適生活空間の創造”</p> <p>【都市づくりの目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 躍動する都市の創造 生活都市の創造 自然と共生する都市の創造 安心して暮らせる安全な都市の創造 	<p>様々なタイプのものがあります</p> <ul style="list-style-type: none"> ● まちづくりの基本理念を主に提示したもの(一般的) ● まちの魅力・特色を前面に押し出したもの ● こだわったキーワードや造語を入れて、アピールを強調したもの 																		
<p>■ 第5次生駒市総合計画(基本構想)(案)</p> <p>【基本理念】</p> <ol style="list-style-type: none"> 市民主体のまちづくり 自助・共助・公助 持続可能な都市経営 <p>【将来都市像】 市民が創るぬくもりと活力あふれるまち・生駒</p> <p>【まちづくりの目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 市民が主役となってつくる、参画と協働のまち 子育てしやすく、だれもが成長できるまち 環境にやさしく、自然と都市機能が調和した、住みやすいまち いつでも安全、いつまでも安心して暮らせるまち 地域の資源と知恵を活かし、にぎわいと活力のあるまち 																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>策定年次</th> <th>将来像(基本理念)</th> <th>まちづくりの目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>豊中市 H12年</td> <td><基本理念> 人と地域を世界と未来につなぐまちづくり(総合計画に基づく)</td> <td><メインコンセプト> ○人と文化を育む創造性あふれるまち ○安心してすこやかな生活のできるまち ○活力あふれる個性的・自律的なまち ○環境と調和し共生するまち(総合計画に基づく) <サブコンセプト> ○活力あふれる便利で快適なまち ○みどり豊かなうおいあるまち ○安全でゆとりのあるまち ○地域の個性を活かすまち</td> </tr> <tr> <td>泉大津市 H20年</td> <td><基本理念> ひとが主役のまちづくり(総合計画に基づく)</td> <td><基本目標> ○「人と人のつながり」を大切にするまちの実現 ○「くらしやすさ」を大切にするまちの実現 ○「安全・安心」を大切にするまちの実現 ○「ブランド」を大切にするまちの実現 ○「こころよさ」を大切にするまちの実現</td> </tr> <tr> <td>三田市 H17年</td> <td><基本理念> 四季体感都市の形成</td> <td>○『見て』感じるために(四季の景観の保全) ○『聞いて』感じるために(静寂と賑わいの創出) ○『薫り』で感じるために(風薫る自然の保全) ○『味わい』感じるために(豊穡の源一農地の保全) ○『触れて』感じるために(四季とふれあうネットワークの創出)</td> </tr> <tr> <td>芦屋市 H12年</td> <td><理念> 美、快、悠のまち 芦屋</td> <td><まちづくりの3つの方向> ○「美」～緑豊かな自然と調和した美しく快適なまちづくり ○「快」～人にも環境にも優しい、住みよいまちづくり ○「悠」～優れた市民文化が息づく、成熟したまちづくり <まちづくりの施策的目標> ○成熟都市にふさわしい市民文化に根ざしたまちづくり ○快適で安心できる都市空間の形成 ○自然環境の保全と芦屋庭園都市宣言の推進 ○魅力ある高質な都市空間の形成 ○すべての人に優しいユニバーサルデザインのまちづくり ○市民、事業者および行政との協働による芦屋らしいまちづくり</td> </tr> <tr> <td>奈良市 H14年</td> <td><コンセプト> 新平城京の創造</td> <td><サブコンセプト> ○園林都市 歴史都市らしい水と緑の都市空間をつくる ○歴史文化創造都市 新しい都市活動・産業基盤をつくる ○生活うるおい都市 豊かな住と余暇空間をつくる</td> </tr> </tbody> </table>	策定年次	将来像(基本理念)	まちづくりの目標	豊中市 H12年	<基本理念> 人と地域を世界と未来につなぐまちづくり(総合計画に基づく)	<メインコンセプト> ○人と文化を育む創造性あふれるまち ○安心してすこやかな生活のできるまち ○活力あふれる個性的・自律的なまち ○環境と調和し共生するまち(総合計画に基づく) <サブコンセプト> ○活力あふれる便利で快適なまち ○みどり豊かなうおいあるまち ○安全でゆとりのあるまち ○地域の個性を活かすまち	泉大津市 H20年	<基本理念> ひとが主役のまちづくり(総合計画に基づく)	<基本目標> ○「人と人のつながり」を大切にするまちの実現 ○「くらしやすさ」を大切にするまちの実現 ○「安全・安心」を大切にするまちの実現 ○「ブランド」を大切にするまちの実現 ○「こころよさ」を大切にするまちの実現	三田市 H17年	<基本理念> 四季体感都市の形成	○『見て』感じるために(四季の景観の保全) ○『聞いて』感じるために(静寂と賑わいの創出) ○『薫り』で感じるために(風薫る自然の保全) ○『味わい』感じるために(豊穡の源一農地の保全) ○『触れて』感じるために(四季とふれあうネットワークの創出)	芦屋市 H12年	<理念> 美、快、悠のまち 芦屋	<まちづくりの3つの方向> ○「美」～緑豊かな自然と調和した美しく快適なまちづくり ○「快」～人にも環境にも優しい、住みよいまちづくり ○「悠」～優れた市民文化が息づく、成熟したまちづくり <まちづくりの施策的目標> ○成熟都市にふさわしい市民文化に根ざしたまちづくり ○快適で安心できる都市空間の形成 ○自然環境の保全と芦屋庭園都市宣言の推進 ○魅力ある高質な都市空間の形成 ○すべての人に優しいユニバーサルデザインのまちづくり ○市民、事業者および行政との協働による芦屋らしいまちづくり	奈良市 H14年	<コンセプト> 新平城京の創造	<サブコンセプト> ○園林都市 歴史都市らしい水と緑の都市空間をつくる ○歴史文化創造都市 新しい都市活動・産業基盤をつくる ○生活うるおい都市 豊かな住と余暇空間をつくる
策定年次	将来像(基本理念)	まちづくりの目標																	
豊中市 H12年	<基本理念> 人と地域を世界と未来につなぐまちづくり(総合計画に基づく)	<メインコンセプト> ○人と文化を育む創造性あふれるまち ○安心してすこやかな生活のできるまち ○活力あふれる個性的・自律的なまち ○環境と調和し共生するまち(総合計画に基づく) <サブコンセプト> ○活力あふれる便利で快適なまち ○みどり豊かなうおいあるまち ○安全でゆとりのあるまち ○地域の個性を活かすまち																	
泉大津市 H20年	<基本理念> ひとが主役のまちづくり(総合計画に基づく)	<基本目標> ○「人と人のつながり」を大切にするまちの実現 ○「くらしやすさ」を大切にするまちの実現 ○「安全・安心」を大切にするまちの実現 ○「ブランド」を大切にするまちの実現 ○「こころよさ」を大切にするまちの実現																	
三田市 H17年	<基本理念> 四季体感都市の形成	○『見て』感じるために(四季の景観の保全) ○『聞いて』感じるために(静寂と賑わいの創出) ○『薫り』で感じるために(風薫る自然の保全) ○『味わい』感じるために(豊穡の源一農地の保全) ○『触れて』感じるために(四季とふれあうネットワークの創出)																	
芦屋市 H12年	<理念> 美、快、悠のまち 芦屋	<まちづくりの3つの方向> ○「美」～緑豊かな自然と調和した美しく快適なまちづくり ○「快」～人にも環境にも優しい、住みよいまちづくり ○「悠」～優れた市民文化が息づく、成熟したまちづくり <まちづくりの施策的目標> ○成熟都市にふさわしい市民文化に根ざしたまちづくり ○快適で安心できる都市空間の形成 ○自然環境の保全と芦屋庭園都市宣言の推進 ○魅力ある高質な都市空間の形成 ○すべての人に優しいユニバーサルデザインのまちづくり ○市民、事業者および行政との協働による芦屋らしいまちづくり																	
奈良市 H14年	<コンセプト> 新平城京の創造	<サブコンセプト> ○園林都市 歴史都市らしい水と緑の都市空間をつくる ○歴史文化創造都市 新しい都市活動・産業基盤をつくる ○生活うるおい都市 豊かな住と余暇空間をつくる																	

(2) 計画見直しの背景について ～ 社会環境の変化を踏まえて ～

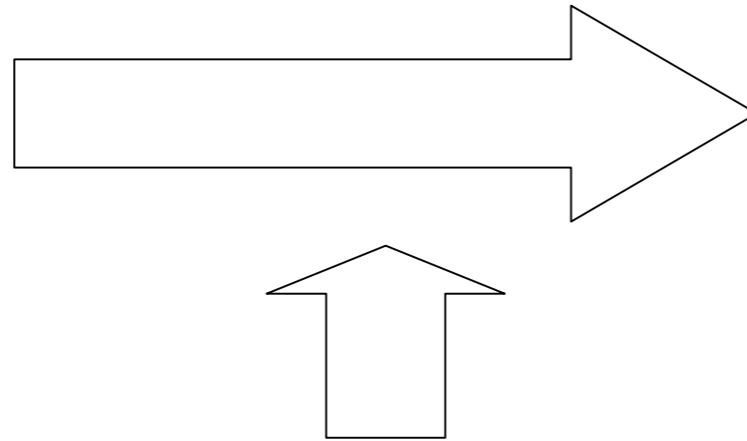
「第5次生駒市総合計画」における位置づけ

◆「社会環境の変化」の基本認識

- ・ 少子・高齢化の進行
- ・ 社会保障制度の改革
- ・ 地球環境問題の深刻化
- ・ 教育の方向性を見直し
- ・ 安全・安心への不安の高まり
- ・ 若年層や子育て世代における雇用問題
- ・ 地域コミュニティの変化
- ・ 地方自治制度の改革

◆「生駒市の特性」の基本認識

- ・ 恵まれた自然と歴史文化
- ・ 大阪近郊の住宅都市としての発展
- ・ 利便性の高い交通網
- ・ 新たな街づくりへの取組み
(関西文化学術研究都市など)



まちづくりにおいて併せて留意すべき「社会環境の変化」

- ・ 少子高齢社会の到来
(長期的な人口減少社会の到来を見据えた対策の必要性)
- ・ 効率的効果的な都市運営の必要性
(厳しい行財政状況を踏まえた対応の必要性)
- ・ 市民参加・市民自治の必要性
- ・ 景観や質を重視したまちづくりニーズの高まり
(成熟社会における量から質への価値観の変化、景観法の制定など)
- ・ 環境配慮や持続可能なまちづくりニーズの重要性
(環境に配慮したコンパクトシティ実現の必要性)

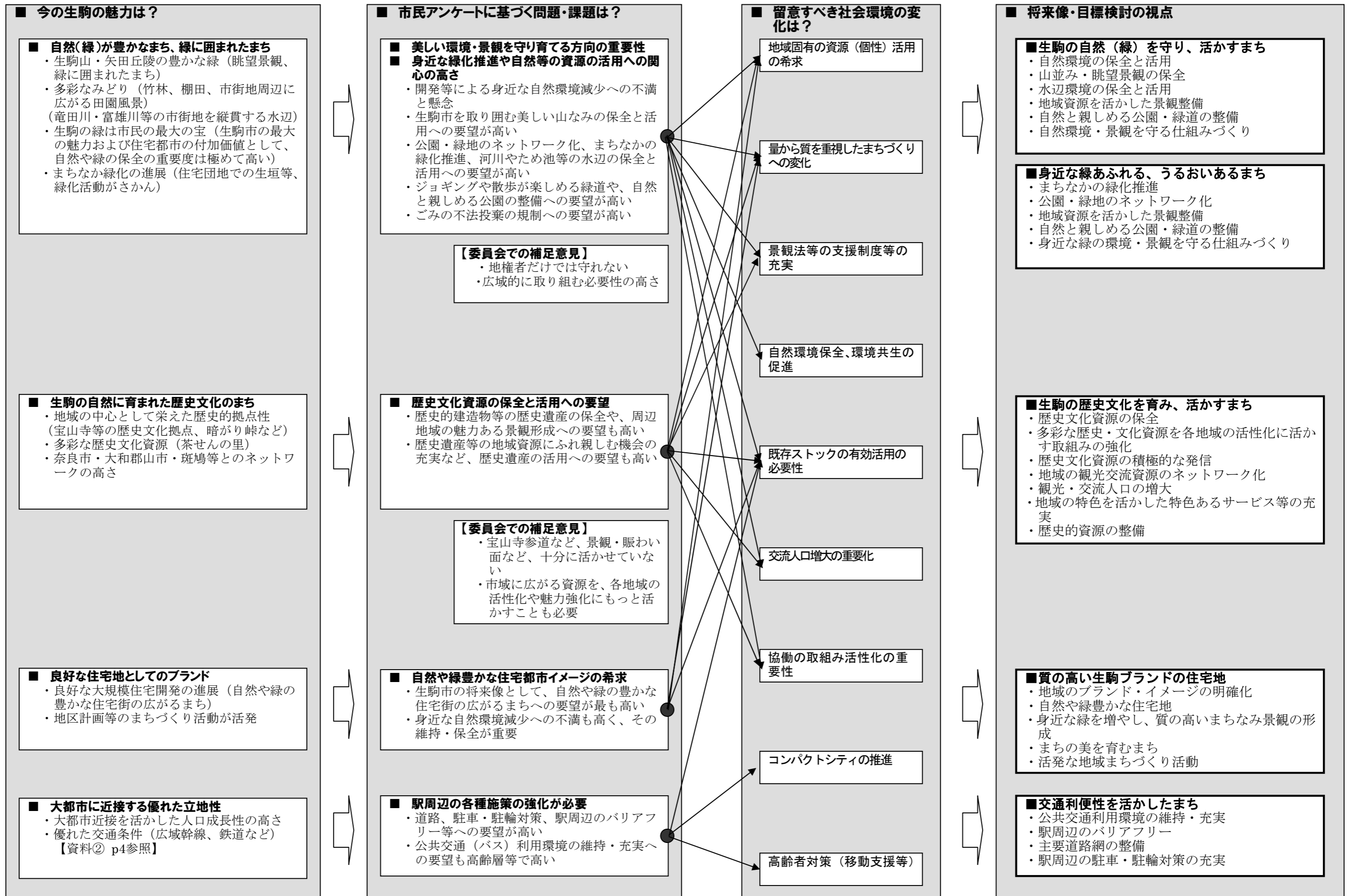
「社会環境の変化」等を踏まえた、留意すべきキーワード

1) 少子高齢社会の到来	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長期的な人口減少社会の到来を見据えた対策の必要性 ・ 高齢者対策(移動支援等) ・ 若年層の定着化促進・少子化対策 ・ 交流人口増大の重要化
2) 効率的効果的な都市運営の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存ストックの有効活用の必要性 ・ 協働の取組み活性化の重要性 ・ 産業基盤等の財政基盤の強化
3) 市民参加・市民自治の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民の役割の重要化 ・ 地域への愛着やコミュニティの増進 ・ 市民パワーの活用
4) 景観や質を重視したまちづくりニーズの高まり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 量から質を重視したまちづくりへの変化 ・ 地域固有の資源(個性)活用の希求 (地域固有の魅力の活用促進) (地域ブランドイメージの強化) ・ 景観法等の支援制度等の充実
5) 環境配慮や持続可能なまちづくりの重要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球温暖化対策 ・ 自然環境保全、環境共生の促進 ・ コンパクトシティの推進 (効率的な都市運営)
6) 安全・安心ニーズの高まり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災対策 ・ 防犯対策 ・ バリアフリー対策

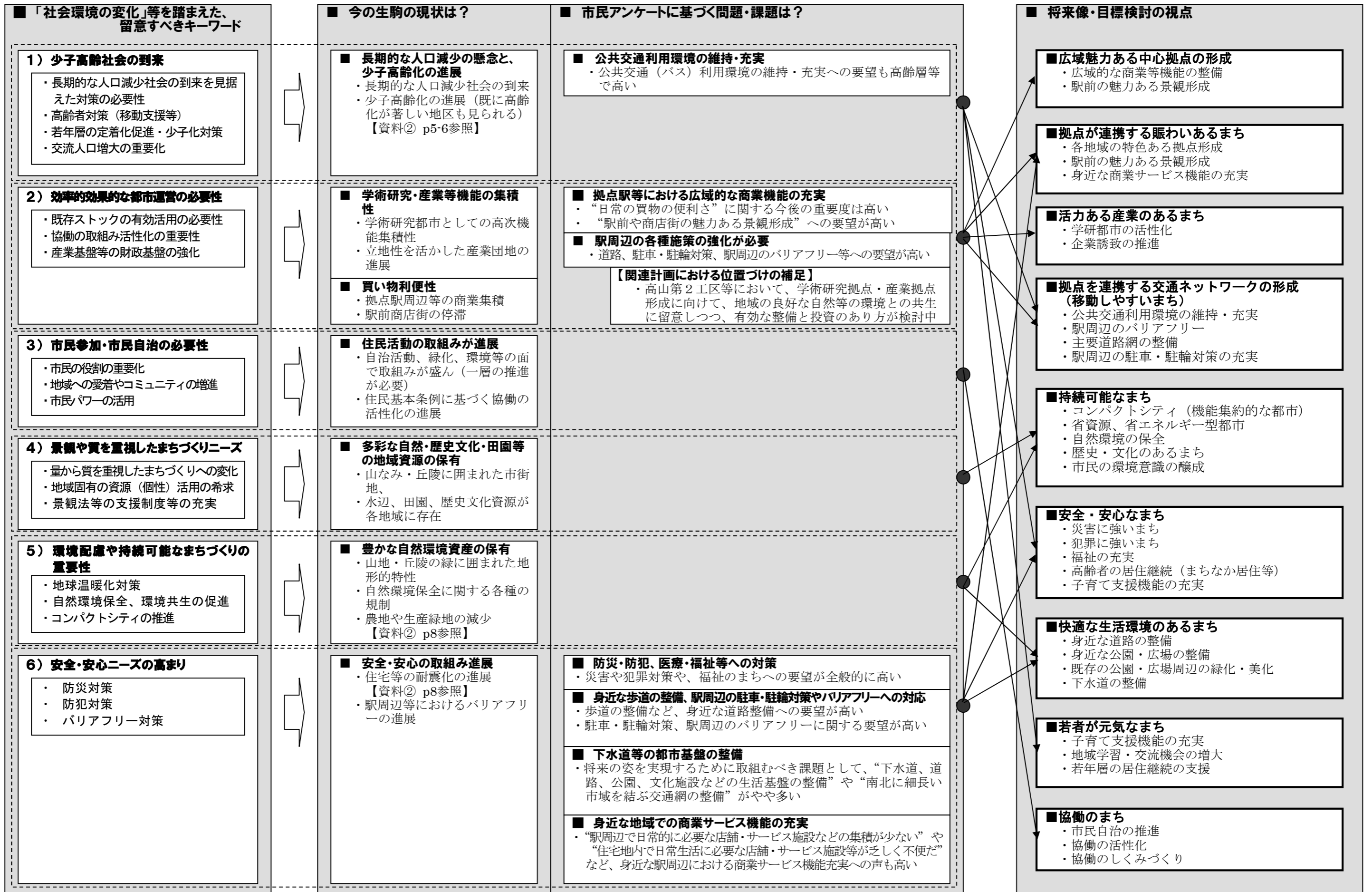
【参考②】 社会環境変化の概要と留意すべき事項について

キーワード	環境変化の概要	計画検討に際して留意すべき事項
1) 少子高齢化社会の到来 (交流人口に着目したまちづくりの必要性)	○全国規模での人口減少・少子高齢化が進んでおり、長期的に人口減少社会の到来が想定される本市においても、長期を見据えた対策が求められる。	○今後一層、人口確保に向けた都市間競争の激化が想定されることから、人口の維持・定着化、特に、現居住者の居住継続や子どもの定住促進、および住みたくなる・住み続けたいとなるブランドイメージの確立が重要である。 ○少子高齢化に伴い、社会保障費増大、労働力の減少、子育て・教育サービスの維持の困難化等が想定され、高齢者対策（福祉・生きがい・健康対策、移動支援）や子育て支援対策とともに、若者の元気を育て活かす都市づくりや、多世代交流等に配慮したまちづくり、次世代を担う人材育成等に留意することが望まれる。
	○人口が右肩上がりに成長してきたこれまでのまちづくりにおいては、定住人口の量が、都市内活動量や消費額・税収等に大きな影響を与え、都市の活力を測る重要な要因となっていたが、今後の人口減少社会においては、通勤・通学、買い物、文化鑑賞・創造・学習・習い事、スポーツ、観光、レジャー、アミューズメントなど、様々な人口集客の量が、都市の活力に大きな影響を与える要因となってきている。	○市内外の交流促進は、多様な人・もの・情報の交流を促し、交流活動の活性化につながるるとともに、まちの資源やフィールドを活用した交流促進により、地域への誇りや愛着の醸成、コミュニティの育成、人材育成等への効果が期待され、また、市民や市外観光客の交流人口増大により、市内の施設・資源の利活用促進や消費拡大が期待されることから、まちの活力を維持向上させていくためにも、観光利用や日常的な利活用促進も含めた交流人口の拡充・活性化が望まれる。
2) 効率的効果的な都市運営の必要性	○国・地方を取り巻く厳しい行財政状況の中、地方分権と行財政改革が進む中、自立性と創意工夫あふれる自治体経営が強く求められている。 ○人口が右肩上がりに成長する社会が終焉を迎える中、自立性を高めるためには、産業基盤の強化が求められている。	○都市基盤やまちの老朽化に伴い、まちの維持・更新にかかるコスト増大が想定されることから、選択と集中による公共投資のメリハリ、既存ストック（公共施設、自然・歴史文化・田園等の地域資源など）の活用促進、まちの魅力（プラス面）増進への投資拡大が望まれる。 ○まちの自立性と活力を高めるためにも、市民との協働の取組みの活性化や、社会環境変化に強い産業基盤の強化等による財政力の強化を図っていくことが望まれる。
3) 市民参加・市民自治の必要性	○市民が望むまちづくり実現に向けての市民参加への関心・活動の高まりや、市民ニーズに適切に対応した効率的効果的な行財政運営が強く求められている背景もあり、市民参加や市民自治に関する活動が全国で活発化している。	○真に市民満足度の高いまちづくりを着実に実現し、地域への愛着やコミュニティの増進、定住促進につなげていくためには、市民参加や市民自治など、市民のパワーを活かしたまちづくりの推進や、そのための仕組みの充実が望まれる。
4) 景観や質を重視したまちづくりニーズの高まり (景観・環境を重視したまちづくり)	○社会資本整備が継続的に取り組まれてきた結果、まちの環境や暮らしの一定の向上が図られ、必要な社会基盤を量的に整備・拡大してきた時代から、質的向上（効率重視から暮らしの便利・快適性の向上等へ）を重視したまちづくりが求められてきている。	○まちの環境（魅力）の質の向上や、重要課題に対する重点投資など、量から質への対応が望まれている。
	○景観緑三法や美しい国づくり政策大綱、歴史まちづくり法等により、地域固有の景観や環境資源、歴史文化遺産の保全と活用に関する支援制度が充実してきており、取り組みの強化が求められている。	○自然環境・歴史文化遺産など、地域固有の景観や環境資源の保全と活用は、それに支えられ発展してきた本市にとって重要な課題であり、良好な環境・景観資源が、将来に渡って守れるのか、都市化の伸展により喪失や魅力の低下の懸念があれば、どのようなルールにより守るのか、また、景観・環境資源を「まちの魅力・ブランド」として、より一層観光交流振興等につなげていくためには、どのような質の向上や対策が必要なのか、について、適切な対応が望まれる。
5) 環境配慮や持続可能なまちづくりの重要性 (コンパクトなまちづくり)	○京都議定書に基づく、地球温暖化ガスの総排出量の削減など、地球温暖化対策や省エネルギーに留意したまちづくりや都市運営が強く求められている。	○地球温暖化対策や省エネルギー問題など、地球規模での環境共生への取組みが重要となっており、自然環境の保全とともに、地球環境に配慮したまちづくりが望まれる。
	○人口減少社会におけるまちづくりのあり方として、中心部の活性化等の都市機能の集約化とともに、郊外等に不必要に拠点や市街地が拡散し非効率な公共投資等につながらないようなコンパクトなまちづくりが強く求められている。	○効率的効果的なまちづくりの観点から、中心部の活性化等の都市機能の集約化と、不必要に拡散しないコンパクトな市街地形成、さらには、過度に車に依存しない交通社会の実現が望まれている。
6) 安全・安心ニーズの高まり	○将来懸念される大規模地震や近年頻発する風水害や犯罪等を背景に、防災・防犯に対する市民ニーズは高まり、適切な対応が求められている。	○防災・防犯や、高齢化社会におけるバリアフリーニーズの高まり、全ての人の暮らしやすい環境づくりなどに対して、適切な対応が望まれる。

(3) 方向性検討のためのキーワードを考える ~ 1) 「生駒の魅力伸ばす視点」について



(3) 方向性検討のためのキーワードを考える ~ 2) 「社会環境変化」を踏まえた、「生駒の主な問題改善にかかる視点」について

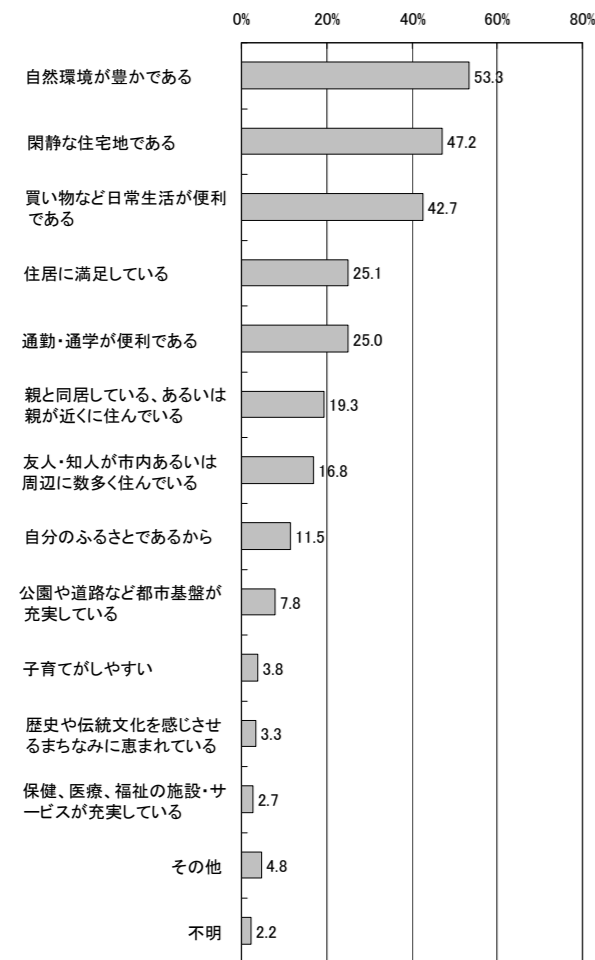


【参考③】 市民意識調査結果の概要 ～ 1) 「まちの将来イメージ、将来像」について

■生駒市総合計画策定に係る市民意識調査

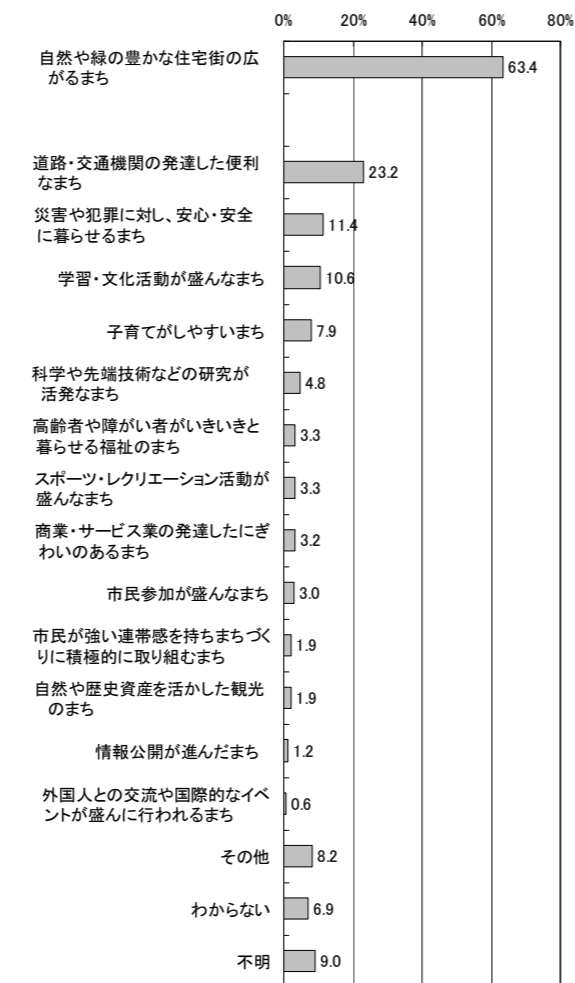
① 定住意向の理由

○「自然環境が豊かである」が最も多い。
○次いで「閑静な住宅地である」、「買い物など日常生活が便利である」、「住居に満足している」、「通勤・通学が便利である」と続いている。



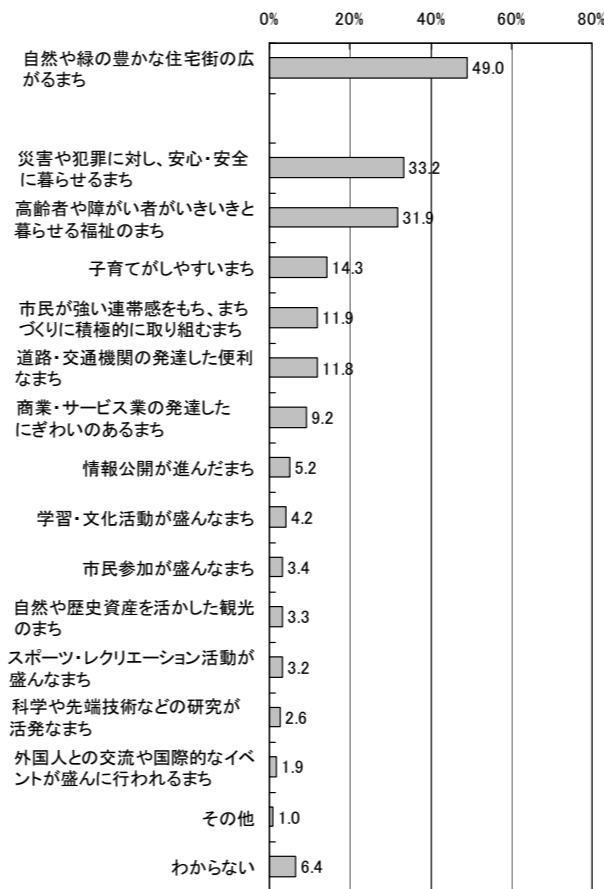
② 本市のイメージ

○「自然や緑の豊かな住宅街の広がるまち」が突出して多い。
○次いで、「道路・交通機関の発達した便利なまち」、「災害や犯罪に対し、安心・安全に暮らせるまち」、「学習・文化活動が盛んなまち」と続いている。



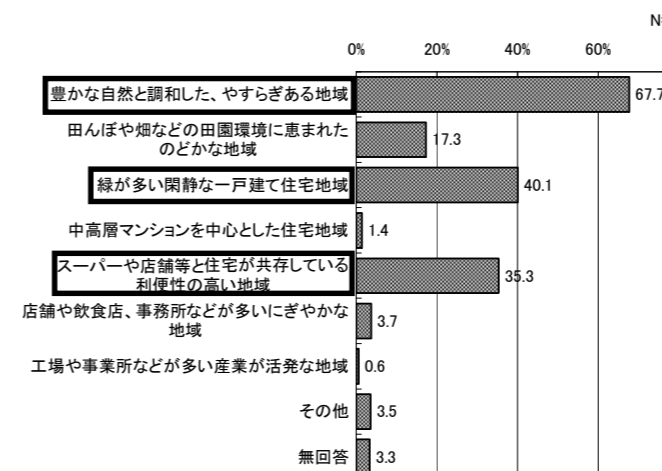
③ 生駒市の将来像

○「自然や緑の豊かな住宅街の広がるまち」が最も多い。
○次いで「災害や犯罪に対し、安心・安全に暮らせるまち」、「高齢者や障がい者がいきいきと暮らせる福祉のまち」となっている。



⑥ 住まいの地域の将来像について

○「豊かな自然と調和した、やすらぎある地域」が突出し、次いで「緑が多い閑静な一戸建て住宅地域」、「スーパーや店舗等と住宅が共存している利便性の高い地域」が高くなっている。



■生駒市のまちづくり・景観形成に関する市民意識調査

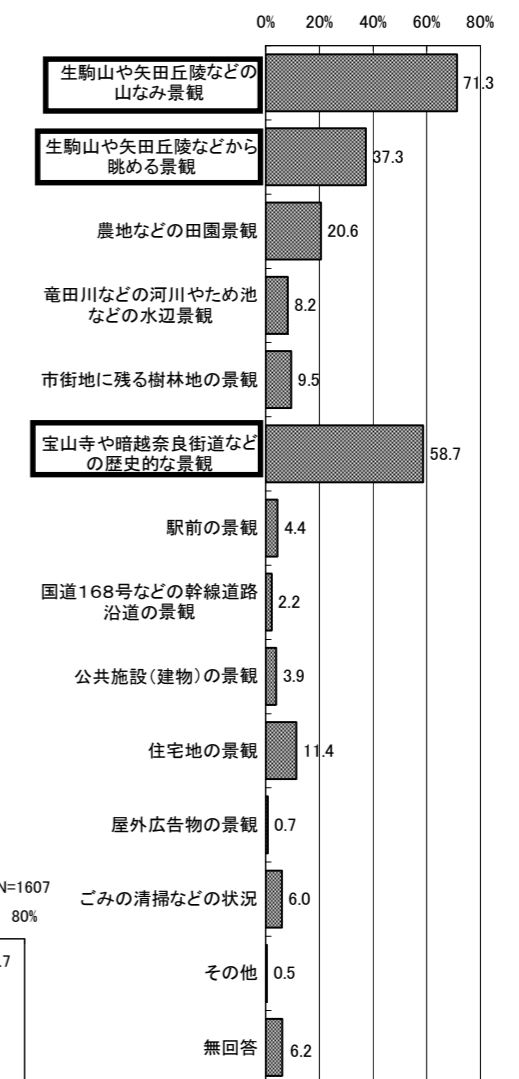
④ 生駒市の景観への評価（自慢度）

○約76%の人が景観を自慢できるとしている。

⑤ 生駒市の好ましい景観

○“生駒山や矢田丘陵などの山なみ景観”が最も高い。
○次いで“宝山寺や暗越奈良街道などの歴史的な景観”、“生駒山や矢田丘陵などから眺める景観”となっている。また、かなり低くなるが、“農地などの田園景観”が続いている。

問12-1. 生駒市の好ましい景観 N=1607

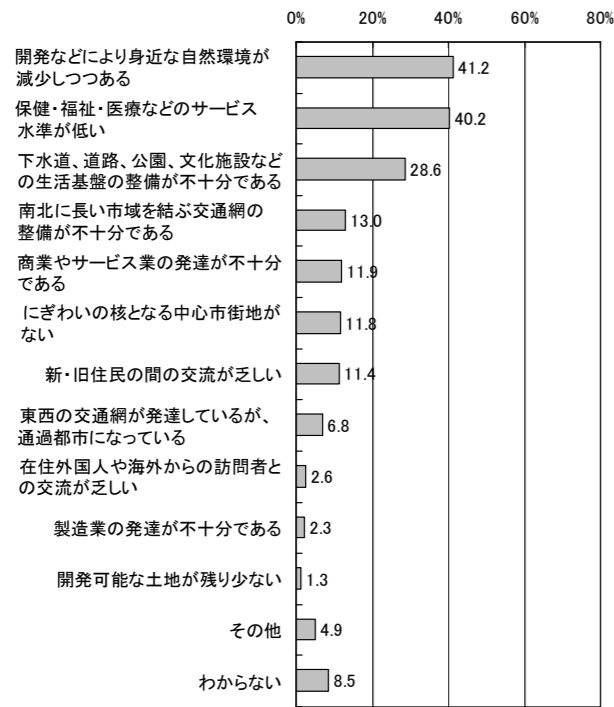


【参考③】 市民意識調査結果の概要 ～ 2) 「将来の重点施策」等について

■生駒市総合計画策定に係る市民意識調査

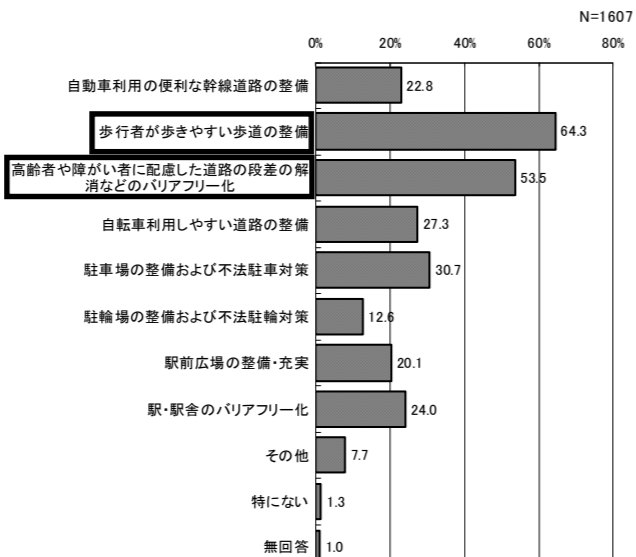
① 将来の姿を実現するために取り組むべき課題

○「開発などにより身近な自然環境が減少しつつある」と「保健・福祉・医療などのサービス水準が低い」が高い。
 ○次いで、「下水道、道路、公園、文化施設などの生活基盤の整備が不十分である」「南北に長い市域を結ぶ交通網の整備が不十分である」「商業やサービス業の発達不十分である」が続いている。



③ 市全体の交通施設整備に関する重要な取り組み

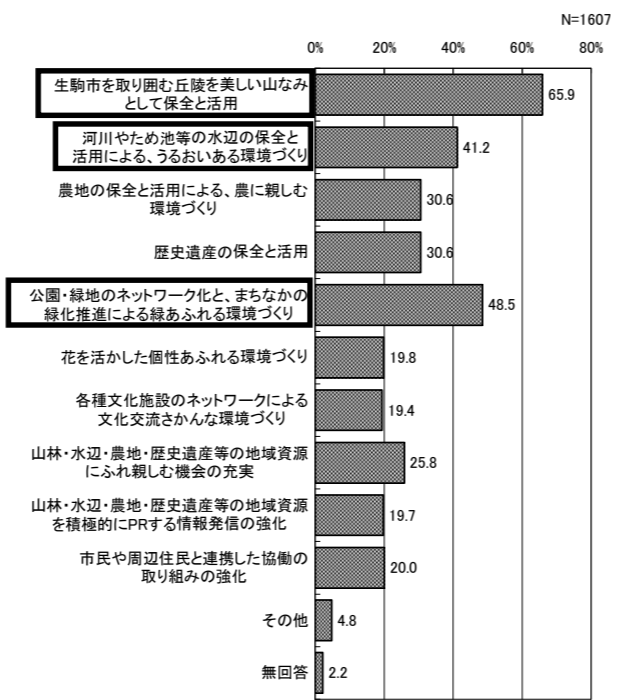
○“歩行者が歩きやすい歩道の整備”が最も高く、次いで“高齢者や障がい者に配慮した道路の段差の解消などのバリアフリー化”が高い。
 ○次いで、若干低くなるものの、“駐車場の整備および不法駐車対策”、“自転車利用しやすい道路の整備”、“駅・駅前広場の整備・充実”と続いている。



■生駒市のまちづくり・景観形成に関する市民意識調査

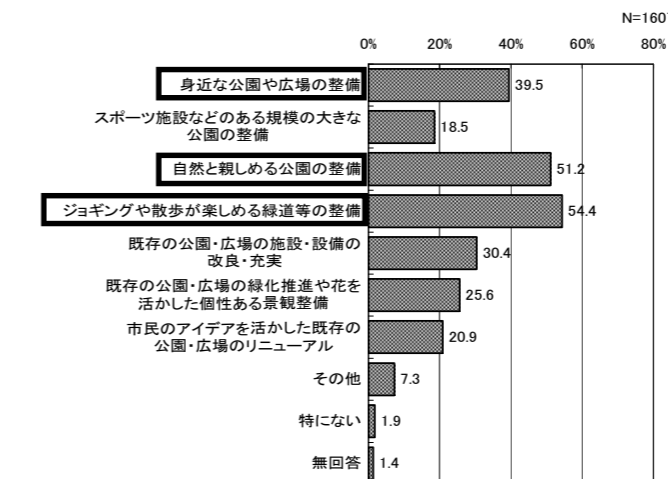
② 市全体のまちづくりにおける重要な取り組み

○“生駒市を取り囲む丘陵を美しい山なみとして保全と活用”が最も高く、次いで“公園・緑地のネットワーク化と、まちなかの緑化推進による緑あふれる環境づくり”、“河川やため池等の水辺の保全と活用による、うるおいある環境づくり”が高い。
 ○次いで、若干低くなるものの、“農地の保全と活用による、農に親しむ環境づくり”と、“歴史遺産の保全と活用”及び“山林・水辺・農地・歴史遺産等の地域資源にふれ親しむ機会の充実”が続いている。



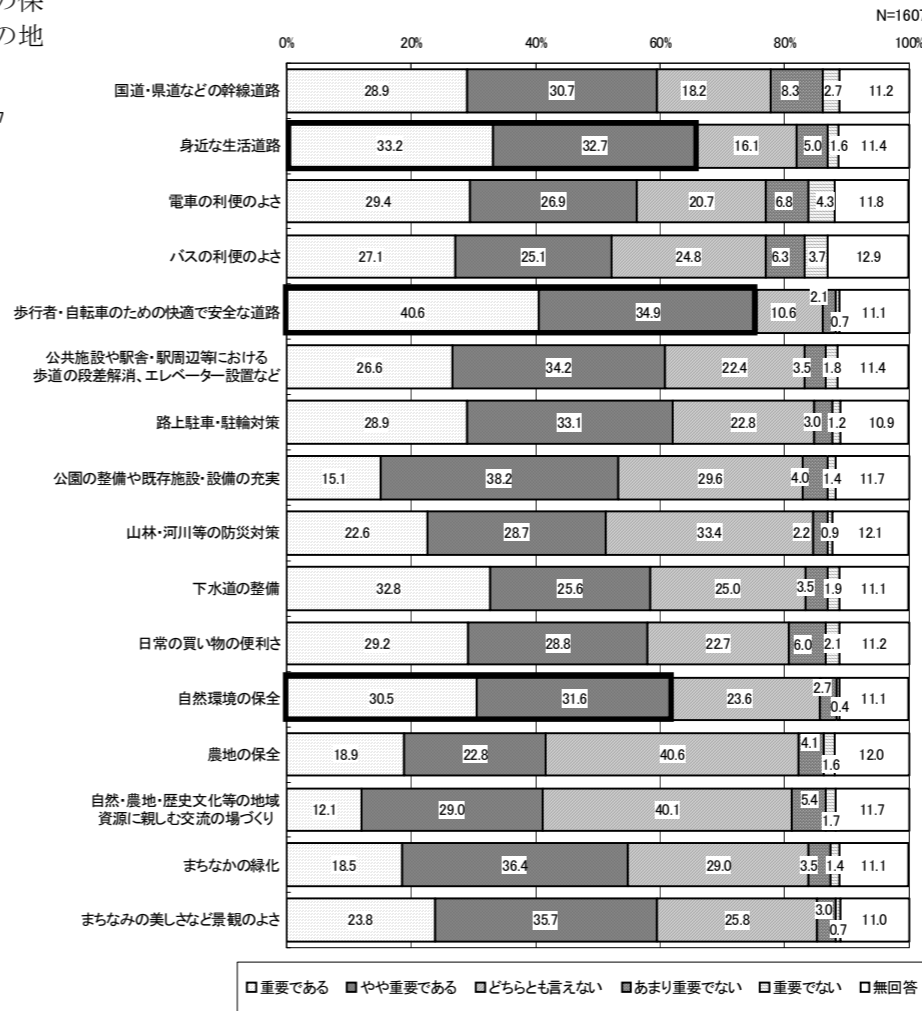
④ 市全体の公園などの整備に関する重要な取り組み

○“ジョギングや散歩が楽しめる緑道等の整備”、“自然と親しめる公園の整備”が突出して高く、次いで“身近な公園や広場の整備”が高い。
 ○また、“既存の公園・広場の施設・設備の改良・充実”、“既存の公園・広場の緑化推進や花を活かした個性ある景観整備”も高く、既存の公園・広場の活用・魅力化に対するニーズも高くなっている。



⑤ 住まいの地域の今後の重要度

○「(やや)重要」の割合が高いのは、“歩行者・自転車のための快適で安全な道路”が特に高く、次いで“身近な生活道路”、“自然環境の保全”となっている。
 ○次いで、“路上駐車・駐輪対策” “公共施設や駅舎・駅周辺等における歩道の段差解消、エレベーター設置など” “国道・県道などの幹線道路”が続いている。



⑥ 美しい景観を守り育てるために重要な取り組み

○“山なみ景観の保全を図る”と“ごみの不法投棄を規制する”が突出し、次いで、“河川・ため池などの水辺の周辺緑化や美化を進める”が高くなっている。
 ○若干低くなるものの、“電線類の地中化を進める”、“まちなかの清掃推進など、きれいな地域づくりを進める”、“公園・広場の周辺緑化や美化を進める”、“歴史的建造物等の保全や周辺地域の魅力ある景観形成を進める”、“市街地の樹林地の保全を図る”、“街路樹・花などによる緑化やカラー舗装など、道路の美化を進める”、“駅前や商店街における魅力ある景観形成を図る”が続いている。

